

PFAS 対策技術コンソーシアム国際講演会「PFAS 対策技術の新展開」(2月4日)と「臨海副都心勉強会」(2月5日)のお知らせ

チケット申し込みはこちら (会員以外の一般参加も可能ですが、定員有、先着順です)

国際講演会と勉強会(2月4,5日)の申込はこちら

<https://pfas-seminar260220404.peatix.com/>

インターアクア勉強会(1月28, 29, 30日)の申し込みはこちら

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdStfLTpL3tBpJmfCvEqoBw3VhEBHELKj0qFgLfU1sx7hv8tQ/viewform>

PFAS 対策技術コンソーシアム国際講演会「PFAS 対策技術の新展開」
開催日(2026年2月4日 水曜日) ハイブリッド会議予定

ほぼ確定プログラム

午前 9:30-12:00

1. 山下信義 (産総研) 「PFAS 対策技術コンソーシアムの 2026 年度計画について」
2. 特別講演 1

サプライズゲスト 「韓国サムスン電子他における PFAS 問題と対策」

3. 特別講演 2

Wei Si (南京大学) 「PFAS-AI 2：人工知能ノンターゲット分析に限界はあるか？」

下記最新論文を参照、昨年 1 月に Nature Communications に公表した PFAS-AI の第二報です。

Nature machine intelligence, 14 November 2025.

Nanyang Yu et al., “Pseudodata-based molecular structure generator to reveal unknown chemicals”

<https://doi.org/10.1038/s42256-025-01140-5>

PFAS-AI 第一報に公表した技術を発展させ、新たに開発した分子構造生成技術 (molecular structure generator : MSGo) を用いる事で標準物質の存在しない PFAS の分子構造を公表済文献のノンターゲット測定データから「自動生成」することに成功した。これは open database としての DIA(データ非依存解析)研究報告を世界共通の PFAS database として利用する事で、地球上に存在する全ての PFAS を人工知能機械学習により「だれにでも参照できる公知の情報」として利用できる道を開いた。中国と日本の PFAS パイオニア研究者が過去 25 年間開発してきた、「人工知能」、「高度分析化学」、「open database」の融合は欧米の研究者が想像していなかった次元に到達した。「だれにでも参照できる公知の情報」は 環境研究総合推進費 5-2401(環境中 PFAS の包括的評価を目指した総 PFAS スクリーニング測定技術の開発) で開発中の「PFAS 知的基盤データベース」にも反映される。本研究成果は日本と中国の研究開発能力を結集したアジア DX において最も影響力の大きい研究成果の一つとして、中華人民共和国生態環境部 (Nanjing Institute of Environmental Sciences : 日本の環境省相当) において表彰された。

PFAS-AI 第一報はこちら

<https://staff.aist.go.jp/nob.yamashita/image/news2024dec3b.pdf>

<https://www.nature.com/articles/s41467-025-56035-1>

分子構造ネットワークと、クラス予測の組み合わせである Two-Layer Homolog Network と Database Mining 技術を用いた人工知能 non-target analysis (PFAS-AI)により、日本国内で採集した 12 種類の撥水剤製品と 2 種類の工業スラッジより 94 種類の PFAS を検出した。その中でも「36 種類の新規 PFAS」は本報告が世界で初めての測定例である。同様な手法を 7 か国の公開データベースに適用することで、地球規模の PFAS 汚染の歴史の再現に成功した。本報告で、PFAS の生産使用がどのように拡大されてきたか、その歴史的経緯を地球規模で再現する手法を提供する事で、有害化学物質管理・規制に關わる国際条約や政策決定に貢献が期待される。

Nature 掲載のお祝いのために山下を訪ねてきた Wei Si 教授 (真ん中左)



一般の方向けの PFAS 分析技術の 57 年間の歴史は下記

<https://staff.aist.go.jp/nob.yamashita/image/PFASQA2025sept.pdf>

4. 堀久男 (神奈川大学) 「先端 PFAS 類処理技術の研究動向」
5. 株式会社クボタ 水環境研究開発第一部 「Thermal Destruction Behavior of Perfluororononanoic Acid in a Commercial Scale Melting Separation Plant」

午後 13:00-18:00

6. 谷保佐知 (産総研) 「国内初 (総 PFAS 技能試験) の結果と PFAS Total Solutions の 2026 年度計画について」
7. Roland Weber (ストックホルム条約コンサルタント) 「PFAS 対策技術コンソーシアム (CAR-PFAS Japan) と欧州機関との国際協力について」
8. Leo Yeung (エーレブルー大学) 「FORMAS プロジェクト と CAR-PFAS Europe の設立について」
9. Xenia Trier (ARAGORN) 「欧州 PFAS 規制の将来計画」
10. Cornelsen Umwelttechnologie GmbH 「(PerfluoroAD+) 技術のアメリカ・ニューヨーク市消防局への導入について - アメリカ PFAS 対策標準技術としての採用」

Martin Cornelsen (CornelsenUmwelttechnologie GmbH 創立者) と 欧州 PFAS 対策技術現地見学会(2025 年 10 月)にて



11. Tarek Rashwan (The Open University, UK) 「Smouldering 技術を中心とした PFAS の完全燃焼分解処理について」
12. フラウンホーファー研究機構 「PFAS in Duesseldorf」
13. Robert Baron (スウェーデン国立地質科学研究所) 「天然及び人工炭素による土壤中 PFAS 安定化技術」
14. OVAM / INDAVER 「ベルギーPFAS 汚染対策技術、国土の再利用を前提とした PFAS の完全分解処理」
- ・その他

コンソーシアム会員は無料で参加できますが、一般の参加はチケット制を予定します。

PFAS 対策技術コンソーシアム「臨海副都心勉強会」

開催日(2026年2月5日 木曜日 13時-17時) 基本的に会場での直接面談・講義

開催場所 産総研臨海副都心センター 別館11階会議室

前日に開催した国際講演会内容の復習・技術紹介・勉強会、同時に一般向けの相談会を開催します。基本的に2月4日の国際講演会に参加した方向けの勉強会・相談会です。

下記、勉強会ホスト6名のPFAS専門家と会場で直接面談・議論を行います。

勉強会ホスト

1. PFAS Total Solutions 代表 谷保佐知 博士

2. PFAS Total Solutions 専従ポスドク研究者 Dipa Lalwani 博士

世界で初めて人毛髪中PFASの分析を行い、ロードダスト解析と合わせてインド全国調査を行った著名研究者で、CAR-PFAS Indiaの中心となる。下記論文を参照

Yuefei Ruan, [Dipa Lalwani](#), Karen Y. Kwok, Eriko Yamazaki, Sachi Taniyasu, Nirmal J.I. Kumar, Paul K.S. Lam and Nobuyoshi Yamashita. Assessing exposure to legacy and emerging per- and polyfluoroalkyl substances via hair – The first nationwide survey in India. *Chemosphere*, 2019. 229: p. 366–373. <https://doi.org/10.1016/j.chemosphere.2019.04.195>

Eriko Yamazaki, [Dipa Lalwani](#), Pooja Thaker, Sachi Taniyasu, Nobuyasu Hanari, Nirmal J.I. Kumar, Nobuyoshi Yamashita, Historical reconstruction of PFAS discharge into the Cooum River – Before and after the great Chennai flood in 2015, *Chemosphere*, 2025. 144068.

<https://doi.org/10.1016/j.chemosphere.2025.144068>

Eriko Yamazaki, [Dipa Lalwani](#), Yuefei Ruan, Sachi Taniyasu, Nobuyasu Hanari, Nirmal J.I. Kumar, Paul K.S. Lam, Nobuyoshi Yamashita, Nationwide distribution of per- and polyfluoroalkyl substances (PFAS) in road dust from India. *Science of The Total Environment*, 2023, <https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2023.164538>

3. エーレブルー大学 Leo Yeung 博士

4. PFAS 対策技術コンソーシアム代表 山下信義 博士

他 サプライズゲスト2名予定

#「研究集会発表資料やコンサル報告書(二次資料)を集めることで議論の本質を理解せずに満足してしまう」大多数の日本人の常識を改善するために、CAR-PFASでは発表資料の配布は行いません。その代わりに講演会内容の理解を高める勉強会等を予定します。国内科学技術力凋

落の原因である御用学者ではなく、国際会議を自分の言葉でリードできる本当の専門家の育成を目指します。

2月4日、5日とも事務局への事前登録が必要です。

参加申し込みなど事務局で調整次第公開しますので、しばらくお待ちください。